

更なる半世紀に向かって



安 井 常 二*

新年明けましておめでとうございます。

このところ、先行き見通しのたて難い社会情勢にあるが、一つの転換期を迎えているのではないかという気がする。時代の区切りには特段の意味があるわけではないが、平成に改元された時にはソビエトの崩壊があって、イデオロギーに支配された冷戦構造の時代が終わり、21世紀になってからは予想もできなかった同時多発テロが発生し、多様な価値観をもつ混沌とした世界の幕開けとなった。プレストレスト・コンクリート（PC）の分野で、最初の実用橋から50年を経たが、平成14年には順調に歩んできた事業に陰りが生じ、大幅な受注額の減少、いわゆる右肩下がりの傾向になっている。ターニングポイントにあっては国民意識が変わったり、政治や社会の体制が転換するといわれており、業界としても更なる半世紀を乗り切るためには、漫然とした従来の延長上の思考を改めて、時代の変化を的確に把握し対応していかなければならない時を迎えているのではないか。

まず、PCの技術開発では何をすべきであろうか。PCの技術の基本はプレストレスを与える鋼材とコンクリートとの技術であるとする、その原点に立ち返ってみる必要がある。PC鋼材では、プレストレスの耐久性が生命線グラウトによる防錆と付着の役割が重要である。グラウトの确实性の向上、万一不具合があった場合の対応技術の確立が必要である。コンクリートでは、高強度化や複合構造化による重量軽減技術とプレキャスト化による現場施工での品質向上がポイントとなる。また、PC構造物が数多く採用されてくると、特殊で最高級をきわめる技術に加え、いつでもど

こでもだれでも確実に実施できる普遍技術の開発普及を図る必要がある。

つぎに、ストック量が増加しこれをどう活用していくかの維持管理の問題がある。PC構造物はメンテナンスフリーといわれ、メンテナンスの必要性は少ないものの、塩害を受ける地域など特殊条件下や現場施工に起因する耐久性の低下が問題になってきている。メンテナンス技術は多岐多様にわたっており、その開発と確立が急務である。メンテナンスは既存の構造物に対してなされるので、その性質挙動を熟知した製作者が実施するのが望ましく、機能を確保した使用状態のまま実施する技術が重要である。その作業単位はきわめて小さく、集中的効率的な施工が難しい実状にある。これらのことを考慮すると、メンテナンスを経済性を含め継続的に実施していくための企業化の検討が必要となる。

今、公共事業を巡って様変わり状況にあり、いわゆるバッシングの風が吹いている。社会資本整備は継続的に着実に実施していく必要があり、ないがしろにすると、かつて「荒廃するアメリカ」で明らかになったように、社会の発展に重大な障害が生じる。ここで、建設業界としては、最終需要者である国民が望んでいる社会資本を供給することができるかが重要な点となっている。従来から留意してきた品質確保とコスト縮減のほか、省エネルギーや工数ミニマムに加え、環境負荷を最少とする施工技術が重要になってきている。さらに企業活動を進める上で、情報公開や説明責任について積極的に取り組んでいく必要がある。

* Tsuneji YASUI：(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 専務理事

プレストレストコンクリート技術協会 出版図書 申込書

申込者名 住 所 〒
氏 名

- ① 個人正会員番号
- ② 法人正会員名
- ③ 法人賛助会員名

①～③のうち、いずれにもご記入のない方は非会員価格になります。

図 書 名	会員特価	非会員価格	送 料 (円)	申込部数 (部)	備 考
第 20 回 PC 技術講習会テキスト PC 技術の役割と発展	4 500	5 400	450		
第 22 回 PC 技術講習会テキスト 新しい PC 技術の実用化	5 000	6 000	500		
第 23 回 PC 技術講習会テキスト 最近の PC 技術の展開	5 000	6 000	500		
第 26 回 PC 技術講習会テキスト 新しい PC 技術の動向	5 000	6 000	500		
第 27 回 PC 技術講習会テキスト PC 建造物の耐震設計の現状	5 000	6 000	500		
第 28 回 PC 技術講習会テキスト PC 技術の新しい動向と国際化	5 000	6 000	500		
第 29 回 PC 技術講習会テキスト プレストレストコンクリートの歩みと 21 世紀の展望	5 000	6 000	500		
第 30 回 PC 技術講習会テキスト プレストレストコンクリートの新たな発展 - 21 世紀 -	5 000	6 000	500		
第 31 回 PC 技術講習会テキスト プレストレストコンクリート技術の適用拡大と世界の動向	5 000	6 000	500		
研究発表会講演概要 第 25 回 (1985)	2 000	2 400	300		申込みは、 ○回○部と 記載ください
研究発表会講演概要 第 26 回 (1986)	2 500	3 000	300		
研究発表会講演概要 第 27 回 (1987)	2 500	3 000	300		
研究発表会講演概要 第 28 回 (1988)	3 000	3 600	350		
研究発表会講演概要 第 29 回 (1989)	3 000	3 600	350		
第 2 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	6 000	7 200	450		
第 3 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	8 000	9 600	500		
第 4 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	500		
第 6 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	500		
第 7 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	600		
第 8 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	600		
第 10 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	600		
第 12 回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	10 000	12 000	600		
'93 FIP シンポジウム論文集 Vol. I, II, III (英文)	30 000	36 000	協会負担		
The First fib Congress 2002 論文集 (英文概要) Vol. 1 ~ 2	10 000	12 000	協会負担		
The First fib Congress 2002 論文集 (英文全文) Vol. 3 ~ 8	30 000	36 000	協会負担		
フレッシュマンのための PC 講座	3 000	3 600	400		
PC 定着工法 2000 年版	4 000	4 800	400		
PC 橋架設工法 2002 年版	4 000	4 800	400		
National Report (The First fib Congress 2002 - Osaka JAPAN) (英・和文 併記)	4 500	5 400	500		
国際プロジェクト研究セミナー 講演資料	3 000	3 600	500		
PC 橋脚の耐震設計ガイドライン	3 000	3 600	500		
プレテンションウエブ橋設計施工ガイドライン (案)	4 000	5 000	500		参考資料 CD-R 共
高強度鉄筋 PPC 構造設計指針	4 000	5 000	400		
fib コンgress 2002 大阪の記録	1 000		300		
規準セミナーテキスト (平成 11 年 12 月) ・ 複合橋設計施工規準 (案) ・ PC 建造物耐震設計規準 (案) ・ PC 斜張橋・エクストラロード橋設計施工規準 (案) - 抜粋 -	5 000	6 000	600		
規準セミナーテキスト (平成 12 年 11 月) ・ PC 斜張橋・エクストラロード橋設計施工規準 (案) ・ PC 吊床版橋設計施工規準 (案) ・ PC 橋の耐久性向上マニュアル	6 000	7 200	600		
協会誌「プレストレストコンクリート」	1 500 *	1 800	150		在庫品に限る *19 巻迄は 1 000 円
協会誌「プレストレストコンクリート」	2 000 *	2 400	150		在庫品に限る *44 巻から
合 計					

上記のとおり代金を添えて申し込めます。

平成 年 月 日

注：前金が原則です。ご送金と同時に本申込書もお送りください (現金書留が迅速確実)。

社団法人 プレストレストコンクリート技術協会
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-6

TEL 03 (3260) 2521
FAX 03 (3235) 3370